

《《インタビュー》》

いつでもどこでも、ユーザフレンドリに、確実にサービスを提供するアクセス系の実現を目指す

高速アクセスネットワーク基盤の拡充、新たなアクセスサービスの創造・拡大に資する研究開発を行うNTTアクセスサービスシステム研究所（以下、AS研）。“Simple”、“Smart”、“Sustainable”の3つを基軸にR&D活動を推進するAS研の取組みについて、本年7月就任された久保園浩明新所長にうかがった。



NTTアクセスサービスシステム研究所
所長 久保園 浩明氏

事業への貢献と、情報ネットワーク社会基盤実現への貢献が使命

——久保園所長は本年7月、NTT西日本-ホームテクノ東海の社長を経て、AS研の新所長に就任されました。まず貴研究所の主要ミッションからお聞かせください。

久保園 私たちAS研は、ブロードバンドアクセスネットワークに関する幅広い研究開発に取り組んでいます。具体的には、高速な光サービスを実現するための光アクセスシステムの高度化、光サービスの普及をサポートするシステムの充実をはじめ、多彩な光ブロードバンドサービスの迅速な開通から効率的な保守運用に向けた様々な技術検討、お客様でも扱いやすく簡単に便利な光ファイバケーブルの開発、ワイヤレスによるシームレスで自在なアクセスの提供から、地下管路やとう道をはじめとしたシビルエンジニアリングまで様々な研究開発に取り組んでいます。また、膨大かつ広範囲に広がるアクセスネットワーク設備を健全に運用維持していくことも重要な責務であり、このための技術開発にも取り組

んでいます。AS研の主要ミッションは、1つはNTT事業会社の収益構造の改善に資する技術の提供と、伝えたい情報を希望する時に、確実に伝えられる情報ネットワーク社会基盤の実現に貢献することです。

“Simple”“Smart”“Sustainable”の3つを基軸にR&D活動を推進

——最近のR&D活動の基本的な方向性をお聞かせください。

久保園 私たちは、本年7月のNTT研究所の組織再編に伴い、ネットワークに関する研究開発に特化した総合研究所へと生まれ変わった新生情報ネットワーク総合研究所の4つの研究所の1つです。アクセスネットワークは、NTT事業会社の収支構造に大きく影響を及ぼすことから、我々が提供する技術について、“使いやすく”して欲しいというご要望をいただいています。“使いやすく”というのは3つの意味があります。1つは設備の低コスト化を図り、低コストのサービスを実現するシンプルなネットワークです。2つ目は、使い勝手が良く、利便性の高いサービスを提供するスマート（賢

い）ネットワークです。そして3つ目は、昨年の東日本大震災以降、大きくクローズアップされましたが、情報ネットワークの根本的な条件である何時でもつながっている、すなわち安全・安心な社会とそれを支えるつながり続けるサステイナブルなネットワークです。私たちが所属する情報ネットワーク総合研究所は、この“Simple”“Smart”“Sustainable”の3軸に沿って研究開発を進めることを基本方針として打ち出しました。AS研でも、この3つのSによるアクセスネットワークの研究開発に取り組んでいます。

——3つのSに基づくAS研の具体的な取組み例をお聞かせください。

久保園 最近の取組みのいくつかは、後続の各論の頁でご紹介しますが、“Simple”ということでは、例えば、メーカの生産性向上の取組みにより光ファイバそのもののコストが大幅に下がってきたことに加え、新たに開発した簡単な構造の超細径高密度光ファイバケーブルや簡易な接続・引落し技術の導入により、より効率的

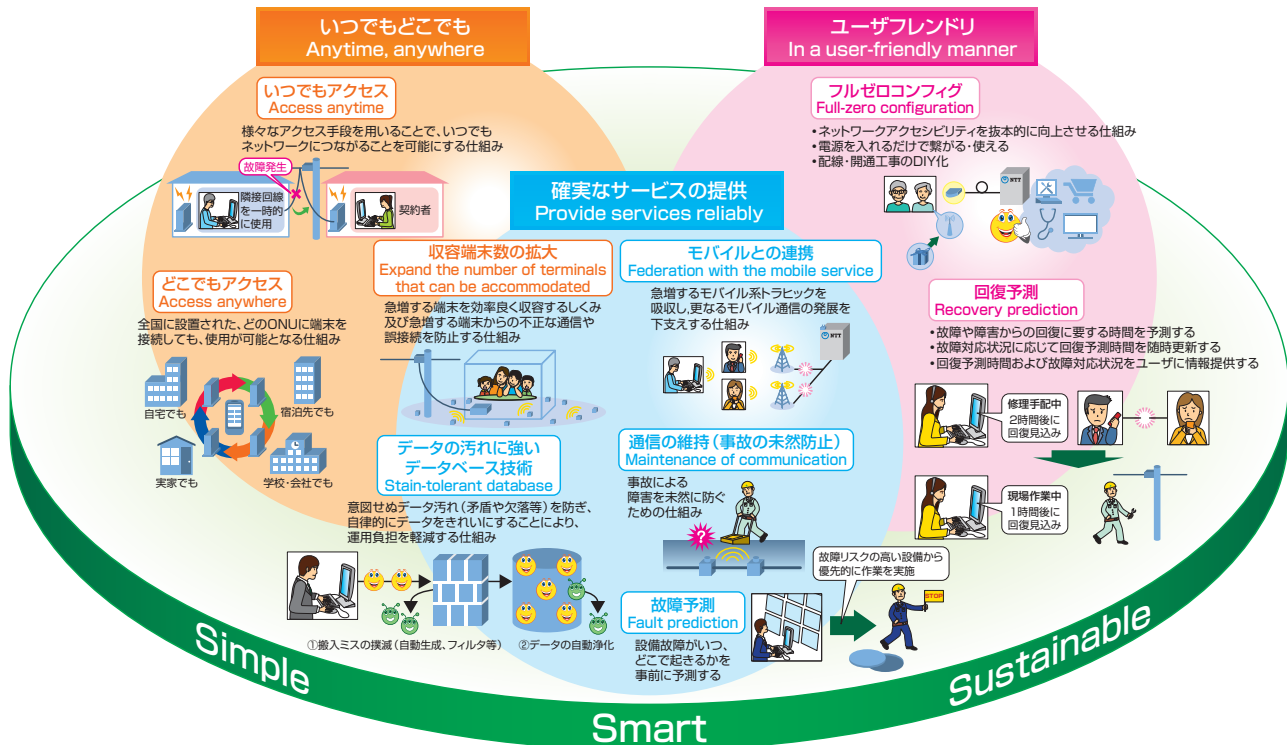


図1 NTTアクセスサービスシステム研究所の将来ビジョン

に光ファイバ設備を構築できるようになりました。“Smart”、すなわち賢くつなぐための研究開発としては、低速から高速まで様々なタイプがある中で、例えば1Gbpsの伝送速度を有するGE-PONや伝送速度10Gbpsの10G-EPONなどの光アクセス方式を1つの伝送装置に収容できるようにする研究開発、あるいはオペレーションについても自動化等によって賢くサービスを提供・維持できるような仕掛けを提供する研究開発があげられます。また、“Sustainable”という観点では、実際に東日本大震災による甚大な被災経験を教訓に、既設管路にショートパイプを挿入することで継ぎ手部分でも外れにくい管路設備や通信基盤設備の点検、診断、補修等の維持管

理に関するシビルエンジニアリング技術の研究開発、さらにはIP電話やインターネット接続回線として活用できる衛星通信システムにより、災害時に早期に必要な情報通信ネットワークを構築する技術の研究開発にも取り組んでいます。AS研が毎年開催している“つくばフォーラム”を去る10月18日・19日に開催しましたが、今年は“つながり続けることの重要性をもう一度考えよう”をテーマに開催し、これらの関連するR&D成果を展示しました。

また、3つのSに基づく研究開発に加え、NTTグループのグローバル展開を支援し、海外においてのNTT R&D技術の利用拡大を図るため、AS研のR&D成果の国際標準化活動や、メーカーとの連携による海

外展開活動の支援にも取り組んでいます。

多彩なサービスの創造、ビジネス機会への創出に貢献

——最後に、将来ビジョンを含め、今後の抱負をお聞かせください。

久保園 AS研では、いつでもどこでも、ユーザフレンドリに、確実にサービスを提供する情報ネットワーク社会基盤としてのアクセスネットワークを実現し、多彩なサービスの創造、ビジネス機会の創出に貢献するために、将来像（ビジョン）を策定しました。今後、このビジョン実現に向けたR&D活動の展開に注力していきたいと思っています。

——今日は有り難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)